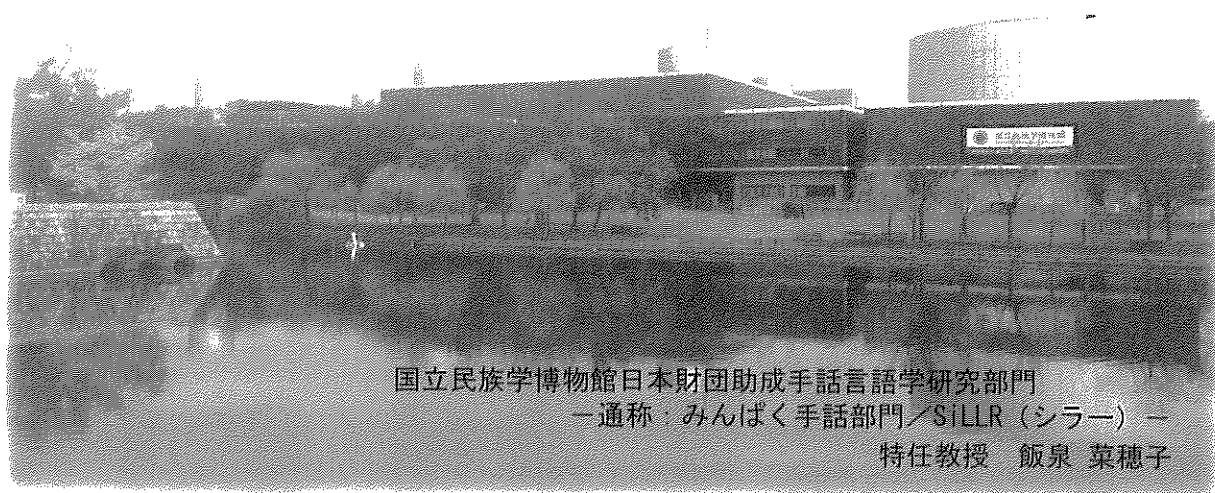


## みんぱくでの学術手話通訳養成事業の取り組み①



国立民族学博物館日本財団助成手話言語学研究部門  
—通称：みんぱく手話部門/SiLLR (シラー)—  
特任教授 飯泉 菜穂子

### はじめに.....

士協会会員の飯泉菜穂子です。昨年、2016年4月から大阪府吹田市にある国立民族学博物館（通称：みんぱく）に、日本財団の助成を得て「国立民族学博物館日本財団助成手話言語学研究部門（通称：みんぱく手話部門）、英語名 Sign Language linguistics Research Section（通称：SiLLR シラー）」が設立され、私はそこで特任教員として活動しています。

SiLLR は 1.手話言語学研究の推進と研究成果のアウトリーチ事業、2.学術手話通訳者の養

成の二つの目標を掲げており、私は 2.の学術手話通訳者養成に関わる諸事業を中心に担っています。学術手話通訳養成の核である「学術手話通訳研修事業」のみならず部門設立2年目となる今年度は『みんぱくで手話言語学を学ぼう！』『みんぱくで手話通訳士を目指そう！』『みんぱくで手話通訳技術を磨こう！』『楽しい言語学を学ぶ会（たのげん）』など、新規・継続合わせて様々な関連講座を展開し、コーディネーターと講師を担当しています。

### 国立民族学博物館（みんぱく）とは.....

国立民族学博物館（みんぱく）は、1970年に開かれた大阪万国博覧会（20世紀少年・少女には懐かしい）の跡地の一角に、文化人類学・民族学に関する調査・研究をおこない、その成果に基づいて世界の諸民族の社会と文化に関する情報を人々に提供し、諸民族についての認識と理解を深めることを目的として1977（昭和52）年11月に開館した世界最大級の民族学博物館です。今年で開館40周年を迎えるということですから、関西出身の手話通訳士仲間の皆さんの中には、子どもの頃に社

会科見学や遠足で行ったことがあるという方もいらっしゃるのではないのでしょうか？ 最寄り駅は大阪モノレールの「万博記念公園」駅。私は毎日、（これまた20世紀少年・少女の郷愁を誘う）「太陽の塔」を眺めながら、よく手入れされた自然公園の中を15分ほど歩いて職場に通っています。春の桜・チューリップ・バラ、初夏の紫陽花・花菖蒲・ルピナス、夏の睡蓮・蓮・向日葵、秋の秋桜...と書き切れなくらいの花々を楽しみながらの通勤はとても気持ちのいいものです。

私の所属がみんぱくになったばかりの頃、多くの知人・友人から「何故、みんぱくで手話を取り上げるの？」「文化人類学や民族学の研究者集団のなかでどんな仕事をしているの？」といった質問を受けたものです。民族学の専門家集団と手話とがどう結びつくのか想像しにくく、また、私の職業経歴がいわゆる研究者

ではないことを知っている方にとって、「みんぱくで手話通訳者の養成をする」ということが、どうにもピンと来なかったようです。ですが、実は私とみんぱくとの繋がりには SiLLR 設立から遡ること4年、今から5年半も前のこととなります。

### 手話は言語.....

みんぱくと手話とを結びつけるもの、それは、ずばり「手話は言語である」という一点です。みんぱくに所属する研究者は、皆さん、世界各地でフィールドワークに従事していらっしゃるが、その研究対象を「言語」としていらっしゃる方（たち）がいます。言語学者が、手話言語と音声言語の比較研究という課題に取り組み始めた時に、研究・学術という領域に対応し

てもらえる手話通訳者が決して多くはないことに気づかれた。そこで、一人でも二人でも学術領域に強い手話通訳者を増やすことはできないだろうか...とトライアルプロジェクトを立ち上げた際に、当時、手話通訳養成校の教員をしていた私にプロジェクトメンバーとして参加するようお声をかけてくださった...というのが5年半前のお話です。

### みんぱく手話部門（SiLLR）について.....

これから何回かに渡って、この「翼」に SiLLR について連載させていただくことになりました。SiLLR が目指すものに向かって、実際にどのような活動をしているのかというご紹介に留まらず、「職業人（プロ）としての手

話通訳」「専門職としての手話通訳」のあり方について、皆さんにも一緒に考えていただけたような内容にしていきたいと思っています。どうぞ、おつきあい、よろしく願いいたします。

飯泉菜穂子（いづみなおこ）

<http://www.r.minpaku.ac.jp/shuwa/>



国立民族学博物館 人類基礎理論研究部 日本財団助成手話言語学研究部門（みんぱく手話部門・SiLLR）特任教授、手話通訳士。民間企業人事での機会均等推進担当、フリーランスの手話通訳・手話講師、NHK 手話ニュースキャスター、民間初の手話通訳養成校手話通訳学科・手話通訳専攻学科学科長（学校法人大東学園 世田谷福祉専門学校：2002年4月～2016年3月）を経て2016年4月より民博。2012年から外部運営メンバー、客員教員として取り組んできた「国立民族学博物館学術手話通訳研修事業」を継続、拡充しながら進めている。